

ゆうかり放送委員会提供

# ゆうかりに乾杯

第 142 回放送の概要 (2019 年 2 月 23 日放送)

**パーソナリティ**  
たろう  
(佃 由晃)  
なか  
(中嶋邦弘)  
かりん  
(妹尾優香)  
くらら  
(河野真紀)



**ミキサー**  
門ちゃん  
(門田成延)  
**会計**  
小山俊則  
**相談役**  
わだかん  
(和田幹司)

## 1. ゲストコーナー (1) 兵庫高校創造科学科 1 年生の小出浩輝さん、今井花さん、

嶋崎友璃奈さん、大澤哲先生

### 1. 創造科学科について

———兵庫高校創造科学科ができて3年目、どういう学科でしょうか？

(大澤先生) 今日午前中に第4期生になる生徒さんたちの合格発表がありました。40名、保護者の方々も沢山来られて説明会、その後本日3名が今やっている活動を説明しましたので、理解をいただける助けになったと思います。普通科との違いは一口で言うと、未来の社会をどう創り上げて行くか、我々の期待を込めて色々な活動をやってもらいます。

1年生では社会科学的なまちづくりで後半は自然科学の方面を、2年生になると文系・理系に分かれて、それぞれがより専門的で周りの方々のサポートをいただきながら答えの無い先の未来の問題に対応ができるような力を付けてもらえるように、頭も心も手も使って主体的な活動をしてもらっています。

———今までですと校内の先生方が教えられますが、学外の講師を招いたり、大学との交流とか、その辺りが大きな特徴に見えますが、その狙いは？

(大澤先生) 生徒たちにとって先生方の指導だけでなく、色んな世代の大学の先生とか専門家の方々の指導を受けられるのは大変な刺激で、学びの力になっています。

### 2. 創造科学科を志望した理由

———創造科学科を目指された動機は何なのか、生徒さんたちにお聞きします。

(小出さん) 中学の時に、創造科学科にいる先輩が高校での授業について説明に来てくれた。すごく話し方が上手で、この様に話すことができたならと憧れて、校風なども楽しそうだなあと、自分でも活動内容を

調べて目指しました。

(大澤先生) やっぱり中学も高校も、先輩の体験談は大きいインパクトです。

(今井さん) 小出くんと同じく、兵庫の校風、雰囲気がとても明るく好きで、普通科と違って自分たちで研究活動ができるというところに惹かれました。夏のオープンハイスクールに行って、自分で先輩の話を聞いたりして、他の高校とは違うな、と興味を持ちました。先輩たちの発表の時の表情がとても生き生きとしていて、きっと楽しいのだろうなと。

(嶋崎さん) 中学(上海の日本人学校)の時はあまり人前で話ができなかったが、変りたいと思っていた。創造科学科の活動を知った時に入りたいと思った。説明会では先輩たちが楽しそうで、ここに決めました。———中学校に生徒たちが赴いて説明するのも授業のうちでしょうか？

(大澤先生) 指導ではないですが、生徒たちには色々な場・チャンスを与えるつもりです。自分で何かを分かり易く伝えることで、先輩としての発表が生きてくるとか、貴重な体験になっています。そういう経験を後輩たちに伝え、後輩たちが志望してくれるいい宣伝効果です。

———みなさん、中学校はどちらから？ 嶋崎さんは上海の日本人学校でしたね。

(小出さん) 僕は精道中学校(芦屋市)です。

(今井さん) 私は北区の有野中学校。

### 3. 課題研究について

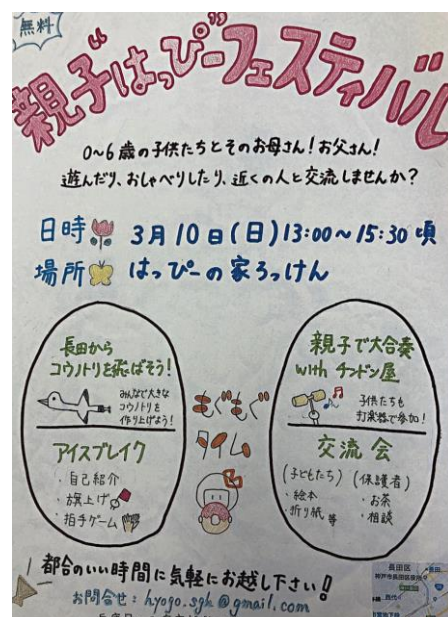
———1年生で習うこと、社会科学の分野でフィールドワークも含めてどんな活動をされましたか？

(小出さん) 地域のお母さん同士の繋がりを増やして愚痴をこぼせるような友達づくり、まちの中にお母さんたちを見守ってくれる人たちを沢山つくって、お母さんたちが安心して子育てできる場を創ること。そういう課題があることを区役所の方から聞いたのでテーマにしました。そこではお母さんたちやまちの人たちが交流できます。

———創造科学科の40人が班・グループに分かれて、それぞれテーマを選んで活動する？

(小出さん) 5人8班に分かれています。区役所の係の方から長田区の現状や課題の説明を受けて、その中から自分たちが興味を持ったものや先生の助言を得て決めます。お母さんのテーマは、自分たちが父親になったら子供たちと接する機会が出てくるだろうし、どんなことになるのか知っておいた方が良かったから。いま企画がまとまってきて、催しをする所にも話をし、3月10日が本番です。

「長田からこのとりを飛ばそう」と、西洋の言い伝えのように赤ちゃんを運んで来てくれる「このとり」の絵に、子どもの名前札を貼ってもらい、絵を完成させます。その前宣伝として、2月14～16日の連日、印象に残って多くの人やお母さん方に来てもらえるように「チンドン屋」で演奏して回りました。子育てイベントは赤ちゃんの体操教室で、1回のイベントで5組くらいの親子が集まってきて、聞いたお母さん方の反応は、「どこの場所？」とか「どんなことするの？」とか、結構反響が大きかった。





(今井さん) 嶋崎さんと同じ班で同じテーマでした。長田区に住む日本人とベトナム人との関わりに目を付けました。区内に多く住まれているベトナムの方も、多くの周りの方々と関わりたいと思っているのに関わっていない、というのが現状です。これを区役所の方から聞いて私たちのテーマに選びました。何か繋がりを創れば良いなと思い、言葉が通じない方々が関わり合い易い文化は何か、「食文化」だと。子供たちでもつくれるようなお菓子教室を、1月20日にふたば地域福祉センターで開催しました。

日本のお菓子としては「どら焼き」で餡子とお芋のクリーム、ベトナム菓子はバナナをライスペーパーで包んで揚げた「バイン・チュオイチェン」、どちらも簡単に作れます。調理は双方一緒にやりました。作り方とか中身はそれぞれの国の人しか分からないので交流するように仕向けました。5班に分け、1つのテーブルで4組10人、子どもも多かった。初からいきなり話し合うのは難しいので、「アイスブレイク」といって軽く遊びを入れて、互いの緊張した心を解きほぐそうとしました。

紙にお題を書き自分の額に掲げて、周りの人に自分のお題は何かと聞く遊びです。お題には干支を取り上げました。ベトナムにも日本と同じ様な干支があります。ただ、日本の兎年は猫年、日本の猪年は豚年と、同じ干支文化でも少し違っています。これを話題にしたことで言葉が通じなくても、少しずつジェスチャーで、また日本の小学校に通って日本語を話せる子供たちも一杯居ますから、そこから繋がりができてお互いに話し易くなりました。言葉の分らない親御さんも初めは抵抗感があったようですが、子供たちが間に入って双方の親御さんたちの架け橋となってくれました。

このイベントに、長田区内でベトナム料理店を営み日本語もかなり話せる神戸ベトナム人会の方がコミュニケーションの仲立ちになっていただきました。このイベントに兵庫高校生は班5人のほか、あと4人ほど加わっていましたが、お陰でベトナム語の分らない私たちでも関わることができました。

—————こういったことを切っ掛けとしていわゆる多文化共生に向かって行ってほしいものです。で、今回ベトナムとの交流のスローガンは何だったんでしょう？ 班で社会活動してみて、何か苦労したこととか？

(小出さん) 班活動のテーマは「親子はっぴーフェスティバル」です。班員同士話し合う中で情報の伝達不足で、フィールドワーク先の説明時に班員同士の共通認識ができていないことが分って、反省材料です。

(嶋崎さん) 班員同士は割と上手くいったのですが、外国の方と関わるイベントだったので、文化の違いや考えの違いを感じました。日本では準備するのが当たり前でも、ベトナム側では適応力が高いというか、準備しなくてもその場である程度やってのけます。例えば、イベントでの準備品とか纏めるのはこちら側の作業と思われていたようで、価値観の差を含め考えの違いを理解した上で活動しなければなりません。

イベント実行の趣旨はお互いの国を知ってもらおうとしたこと、特に長田の人たちにベトナムの人たち

や文化を知ってもらおうのが目的でした。その活動の後にとったアンケートでは、①お互いの国に興味を持ったか→日本、ベトナム全員が「ハイ」、②このような機会を続けるべきか→同じく「ハイ」との答えで、大変嬉しかった。

#### 4. 自然科学分野への取り組み

—————創造科学科の前半が終わり後期に入って、先生がおっしゃっておられた自然科学系のどんなテーマに取り組みましたか？

(小出さん) 班によって1~2回神戸大学へ行って院生さんに器具を借りたり手伝ってもらったりして、「光合成」に必要な酵素の1つ「ルビスコ」の他の酵素に比べて効率が悪いのをどうやったらより働かせて効率が上がるか、という研究です。

(今井さん) 植物について在来種と外来種とも、それぞれが生息する土壤のPH(パーハー)や水分によって育つ種類が違ってくるのをデータ化して相関関係を調べました。

(嶋崎さん) 昆虫はなぜ6本足があるのか。人間は2本(足として)、ほ乳類は4本、くもは8本とか。昆虫の足を切り取り、足の働きを観察して6本の必要性を調べました。

#### 2. ミュージック:「Oceano」小河悦司

お送りしている曲は、WMIBA ワールドミュージック・インターネット放送協会より提供いただいた、小河悦司さんの「Oceano」です。

#### 3. ゲストコーナー(2)

##### 5. 他の高校、大学との交流

—————創造科学科の特徴として、RRE という授業、また校内だけではなく他の高校や大学との交流が沢山ありますね。

(今井さん) RRE は「Research & Report in English」で、英語で自分たちの研究を纏めて発表する授業です。学期に1回、外国人留学生に自分たちが調べたことを発表します。1学期には「水について」、世界には一杯水があるが(食の)原材料にも(生産に)えさ(飼料)としても使われていることなど。また、自分の出身校について発表することもありました。2学期は、日本の少子高齢化について各班でテーマを分けて担当して、うちの班は年金・医療についてでした。

(嶋崎さん) うちの班は、未婚とか離婚とかがテーマでした。まず日本語で自分たちの調べたことをまとめる際に、低年齢向きの簡単な日本語で書いて、それを誰でも理解し易い英語に訳して、英語圏でない留学生にも伝えられるようにしました。留学生の英語も分かり易く、パワーポイントを使って写真や文章もあつたりで、すぐに理解できました。

—————なるほど、創造科学科では英語での授業が重要視されていますね。また、最近大学で発表されたものとは？

(嶋崎さん) 福井大学で社会科学分野テーマ「子供をカギにベトナムの扉を開く」の発表をさせていただきました。「実践研究福井大学ラウンドテーブル」では、地域をどう活性化するか、各高校がそれぞれのテーマで発表、小学生や中学生も参加して自分たちの考えたことを発表していました。自分たちの発表は既に終えたイベントの報告で、褒めてもらい、嬉しかった。他の発表を聞いて、他県では全く違ったテーマだったので面白く、また小学生の発表も、自分たちが通っている学校の町をどうPRするのか、と多彩でした。

ラウンドテーブルの他に交流会があり、今求められる教育について、同席のフィリピンや香港の方を交えて、私は先生にあらかじめ仕込まれた英語で議論しました。班別になっても同じ高校が一緒にならないように分けられていて、もっと自分の意見をしっかり英語で言えるようになりたいと思いました。フィリピンや香港では、中学校や高校など日本と教育制度が全く違っていて、フィリピンでは最近やっと大学進学に備えた高校ができたところだとか。教育は英語なのでうらやましいが、それでも今の自分たちは恵まれていると思った。



創造科学科ブログより転載

## 6. 学外講師について

———創造科学科の特徴の1つとして、校外の講師を招いて話を聞けますね。その中で、特に印象に残ったものは？

(小出さん) ジャーナリストの下村健一さんで、情報の受取方について講義があり、特に印象的でした。1つの情報に対して色々な視点から見てその1面の情報に惑わされないように、具体的な例として熊本地震のときの「ライオンが逃げた」というのがあったが、情報を疑って見ることを学んだ。人の話を聞くときも、本当に正しいのか、自分で判断し意見を持つことが大切と思った。

———SNS で入った情報をそのまま転送するのではなく、情報を評価するとか、転送したときの責任を感じれば、確認作業が必要になりますね。

(今井さん) 下村さんによると、転送の際に一言「合ってる？」を付けると良い、その一言の有ると無いとでは大いに違ってくるのだそうです。

———元外務次官をされていた藪中三十二さんの講義はいかがでした？

(嶋崎さん) 2月6日に、私たちが質問したことについて解説するという話し合い・ディスカッションのスタイルで、「目指せ！ 世界に負けない日本人」のテーマで講義いただきました。特に印象に残ったのは、いまアメリカ大統領のトランプさんが世界中で問題になっていて、アメリカのことばかり勝手なことばかり言っていると、オバマさんの時の方が良かったとか。でも、アメリカを第一に考える大統領としては凄く良い人ではないのかとも。

藪中さんに聞いたら、「それは良い質問だと思うよ。確かにトランプさんはアメリカのことを考えているが、アメリカだって海外に進出している企業が多いのだから、世界のことも考えないと、永い目で見ると海外に関わっている大勢の人たちが痛い目に逢うことになるだろう」

それで、アメリカのことを考えるトランプさんはアメリカにとっては良い大統領だろうか、また海外との関わりも大事なことなんだ、一方の見方だけでなく広い視野で見ていかなければならないのだ、と思いました。そして、「長年アメリカが世界を引っ張って来たのに、それが無くなってきて、世界が混乱して

くるんだ」と話されて、「その辺りを考えた上で関わって行かなければならないし、アメリカだけに任せておくのではなく、他の国でもちゃんと意見を言えるようにしないといけない」と感じました。藪中さんのお話しは、事前にちょっと調べていましたが、もっとしっかり知っていなければならなかった、と強く感じました。



### 創造科学科ブログより転載

(小出さん) みんなと話し合う中で、全然社会のことに疎かったのが自覚できて、もっとしっかりとニュースとかを見なければいけないと感じた。

下村さんの話でも、トランプさんも悪い大統領と言われているが、違う角度から見ればアメリカに良いことをしているし、また別の違った角度から見るとアメリカにとって毒になることをしているのではないか、ということも分った。これまで学習したことと絡めて、色々な講義は面白かった。

———みなさんは新聞やいろんな本を読んでいますか。自分の趣味で好きな本ばかりではいけません。新聞や新書などもっと読むように心がけて、視野を広げてほしいものです。今の中学1年生でも学校で時事問題のテストがあると聞くし、今の若いみなさんも政治は自分とは関係ない遠い世界のことだと思わないで、今の教育にいくら投資するのか国が予算を付けるのかどうかも政治だし、直接自分たちに関わっていることとの意識を持つべきで、この分野の勉強も大事だと思います。

## 7. 高校生鉄人化まつり

———話題を変えて、この3月に長田区内の高校が集まって「高校生鉄人化まつり」が開催されますね。みなさんは全員実行委員会のメンバーで、準備はどこまで進んでいますか？

(今井さん) 長田区の高校生を対象にしたイベントで、高校の文化部がもっと地元で発表できる機会を求めて始まった企画です。現時点では、どこの高校に出場してもらうか、委員会事業として祭りをもっと盛り上げたいと、実行委員会の兵庫高、野田高、育英高の3校がどういう屋台を用意するか、またステージを盛り上げるパフォーマンスとして、今年は「借り人競争」と名付けて色々な人たちとの関わりとか交流が進むことを目指しています。クラブ活動も参加します。兵庫高からは、書道部、弦楽部、ダンス部、吹奏楽部が、展示としては自然科学部の天文班が参加します。祭りのスローガンは「平成最後！ 鉄人が繋ぐ未来への絆」で、平成最後ならではのテーマを考えました。「繋ぐ」というのが多世代の「絆」ができるようにと、「借り人競争」を取り入れました。3月16日、土曜日11時の書道パフォーマンスから始まり、11時15分から祭りが開会、一日中やります。雨天の場合は近くの商店街アーケード内を用意しています。

## 8. 1年間の勉学で得られたこと

——約1年間、創造科学科で勉強して来られ、どんな感想を持っていますか、得たものは何ですか？

(小出さん) 元々この科に来たのは話す力を付けたいと思っていたからですが、自分ではその力が付いてきたと実感しています。色んな面で成長できたこと、研究とか他校との交流とか、多方面の興味を持つことができました。

(今井さん) 自分の意見を持つことが一番大事だと思いました。知らないことでも話を聞いて思うことを自分の意見で周りに伝えて、また反応を取り入れ、さらにそれをどう考えるのか、その一連の流れも最初に自分の意見が無ければ始まらないですね。自分の意見を持つことは、これから社会に出て何かをする上でも大事だと思うし、またその力が付いてきていると感じています。

(嶋崎さん) もっと人前で話せるようになりたかった。フィールドワークに行き、地域の大人の方とか、普段の生活では話すことも無かったであろう方とも話せました。他校の生徒とも話をすることができて、福井大学の時も校内の発表の時もパワーポイントを使ってプレゼンテーションして、自分も意見が伝えられる力が付いたようです。

——要するに、刺激の強かった1年だったのでしょ。みなさん、色んな人の意見を聞いた時に、そのポイントを掴む力を持ち、また調べてみることなど実行して成長して行かれることと期待します。

## 4. 地域瓦版

先ほど生徒さんたちの紹介にあったように、

・3月16日(土)は「高校生鉄人化まつり」が若松公園・鉄人広場で開催されます。

・3月17日(日)には同じく鉄人広場で、ジャンルを超えたダンスの祭典「第8回鉄人ダンスフェス」が開催されます。観覧無料です。40組以上のチームで、キッズダンサーからプロダンサーまで、ヒップホップダンスやブレイクダンスなどが繰り広げられます。

・3月24日(日)には同所で2500株の花で飾られたステージで、昭和ヒットの懐メロをプロが歌い上げる「新長田花の歌謡ショー」が開催されます。



## 5. エンディング

—————「学校への通学、部活で遅くなることもありますか」とお聞きしたら、大体40～70分でしたが、学校に夜間部があるので部活は早く切り上げる、とのこと。ちなみに、小出さんは剣道部、今井さんは放送部と生徒会、嶋崎さんはラグビー部の顧問（マネージャー）として頑張っています。それではみなさん、初めて放送に出られての感想はいかがですか。

（今井さん）今までのことを話すことは、自分のことを振り返ることであり、大変楽しかった。

（嶋崎さん）普段しないことでしたが、暖かい雰囲気話せてよかったです。

（小出さん）ラジオで喋るといことはこんな風になっているのか、結構楽しかったし、その中で自分の言葉、意見をまとめることが難しく、いい経験でした。

放送音声は、FMYYのHPおよび「ゆうかりに乾杯」のHPで視聴いただけます。

<https://tcc117.jp/fmyy/?cat=51>

[http:// yukari-ni-kanpai.sakura.ne.jp/](http://yukari-ni-kanpai.sakura.ne.jp/)